



共生の時代

'11
1月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多4階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



グリーンコープ共同体顧問 **行岡 みち子**さん

プロフィール
熊本県出身。1977年、北九州北部生協(現グリーンコープ生協ふくおか)設立期入協。1988年から2009年までグリーンコープ北九州専務理事に就任。2001年から2009年までグリーンコープ生協ふくおか常務理事。現在ファイバーリサイクル事業部事務局長、生活再生ワーカーズ「ともに」相談員を兼任。

ファイバーリサイクルを 路上からの自立へのステップに

昨

年11月にグリーンコープが本格的な取り組みをはじめたファイバーリサイクル事業。その責任者として立ち上げの陣頭指揮を執り、事業を軌道に乗せるため奔走しているのが、行岡みち子さんだ。



アルカイルアカデミーの子どもたち

2007年グリーンコープ生協ふくおかが、パキスタン支援に長年取り組んできたNPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)と協力してファイバーリサイクルに関わるようになったのは、過酷な状況にあるパキスタンの子どもたちの支援をするためだった。パキスタンに渡った古着は現地のバザールや古着業者に売られ、主に貧しく教育を受けることができない子どもたちのための無料の学校「アルカイルアカデミー」の運営費となる。

グリーンコープが自前でリサイクルセンターを造り、古着の回収にはじまる一切の事業をJFSAと連携してオールグリーンコープとして取り組むことになったのは、生活困窮者のための自立支援施設「抱樸館福岡」の入居者が社会に復帰していくための準備段階として職業訓練の場をつくる

という、グリーンコープ独自の目的があったからだ。グリーンコープの生活再生相談室を立ち上げ、現在も相談員を兼任、「抱樸館福岡」で出張相談をしている行岡さん。「パキスタンの子どもたちの将来を生きるため、誰かの役に立っている自分を確信し、自信を取り戻してもらえれば」といって思っています。

今年、現地の実情やJFSAの取り組みの成果を実際に見るため、行岡さんはパキスタンに飛ぶ。「この取り組みをどのように育てていけばいいのかわからない、現場を確かめないと。そして事業を成功させなければ。現地の子どものために言えば、きつとエネルギーをもらえるとあります」。古着が30tまで集まったら、博多港から直接パキスタンに向けて荷物を送り出す予定だ。「その時には、関係者が集まり出発式のよ

Contents

- 「互恵のためのアジア民衆基金」第一期社員総会
～アジアの連帯のさらなる強いきずなに希望をのせて～ 2
南と北の新しい連帯のあり方を世界に発信
- うちのメーカー・うちの生産者 ④
木下食品株式会社 生芋こんにやく 3
- …2011年を寿ぐ…
「生命を育む食の運動」をベースにグリーンコープの助けあい
支えあいを地域に広げていきます 4・5
- 原点に戻り、さらに役立つBMW技術へ 6
- 生産奨励金贈呈式
産直びん牛乳を飲んで、生産者を支えていこう! 7



▲ネグロスのオクラ畑。自立のための野菜作りがすすめられている

総会の参加者▶



「互恵のためのアジア民衆基金」 第一期社員総会

アジアの連帯のさらなる強いきざすに希望をのせて 南と北の新しい連帯のあり方を世界に発信

2010年11月20日、民衆交易の原点となったフィリピンネグロス島で、第一期社員総会が開催されました。現地からの35人を含め、インドネシア、東ティモール、パキスタン、パレスチナ、マレーシアなどアジア各地、そして韓国、日本から、総勢約100人が一堂に会しました。グリーンコープからは各単協の理事長をはじめ12人が参加しました。

2010年11月20日、民衆交易の原点となったフィリピンネグロス島で、第一期社員総会が開催されました。現地からの35人を含め、インドネシア、東ティモール、パキスタン、パレスチナ、マレーシアなどアジア各地、そして韓国、日本から、総勢約100人が一堂に会しました。グリーンコープからは各単協の理事長をはじめ12人が参加しました。

韓国での設立総会では、民衆の自立のための活動、農業の自立、貧困の解消、平和のための活動をおし、南の民衆と北の市民の真の連帯こそが大切なことであると確認できました。その上で、2010年にはフィリピン・東ティモール・パレスチナの4つの事業に融資が行われました。アジア民衆基金が力強いものとなり、南と北の新しい連帯のあり方が世界に発信されることを希望します。

「記念すべき第一期社員総会を、ネグロスで開催することができました。国や地域を越えて豊かなきざすなで強く結ばれる会となることを希望します」との歓迎の挨拶がありました。続いて、基金の会長である藤田和芳さん（大地を守る会会長）より、「昨年の

韓国での設立総会では、民衆の自立のための活動、農業の自立、貧困の解消、平和のための活動をおし、南の民衆と北の市民の真の連帯こそが大切なことであると確認できました。その上で、2010年にはフィリピン・東ティモール・パレスチナの4つの事業に融資が行われました。アジア民衆基金が力強いものとなり、南と北の新しい連帯のあり方が世界に発信されることを希望します。

最後は、昨夏亡くなられた朴才一さん（社団法人ハンサリム名誉会長）の後任理事に就任した金政慶さん（ハンサリム連合会会長）から閉会の挨拶がありました。「韓国には何事もはじまりが重要だということわざがあります。頭で考えたことを実践に移す



総会で挨拶する一柳より子さん

2009年12月、グリーンコープ生協ふくおか組合員の一柳より子さんよりアジア民衆基金に融資があり、今総会に招待されました。

総会の挨拶で「私は若い頃、生きたお金を、生きるお金を使いなさいと教えられました。融資を受け、三度の食事が心配なく取れ、生活が安定し、お父さんお母さんに大事に育てられる子ども。その子どもたちが成長して、また、自分の子どもたちを可愛がる。そんな幸せな社会づくり。この会は夢や希望のある国づくりのための、いろいろなノウハウを持つています。ますます発展し、世界に広がり根付いていくことを願っています」と融資に託した思いを語られました。

2010年融資先の4つの団体からの報告

フィリピン CORDEV



トム・フェルナンデス

高地農家の経済状況の改善と環境保全を目的に椎茸生産に取り組んだ。干ばつのため、原木に十分な水やりができず、椎茸の成長に影響が出た。プロジェクト参加者の技術、意識の向上も必要な課題の一つと捉えている。

フィリピン ATFI



エドウィン・ロベス

サトウキビ代金として受け取った証券を現金化する金融サービスを生産者に提供している。高利貸しに高い手数料を払うことなく、代金を手にできるようになった。日々の現金輸送上の安全の確保も念頭に置き、町の産業と経済の活性化をすすめていきたい。

東ティモール KSI



ダニエル・ペレイラ

コーヒー栽培への依存度を下げ、作物多様化、農村と都市の流通をすすめることで、食料自給や栄養改善、コミュニティの活性化を図る計画だ。融資事業のうち地鶏養鶏は鶏が多数病気で死亡（現在は回復）、魚養殖は池を建設したが、稚魚放流はまだである。技術の習得が今後の課題となっている。

パレスチナ UAWC



カレッド・ハドミ

オリーブオイルを中心に、農産加工品の管理施設や倉庫建設の事業計画をしている。初年度は土地を購入し、施設の設計図を基に今後の計画を立てていく。

「互恵のためのアジア民衆基金」に込められた意義と基金の財源について

1980年代後半、世界的な砂糖の大暴落で、フィリピンネグロス島は飢餓に陥りました。そこへの緊急支援から、マスコパド糖とネグロスバナナの民衆交易がはじまりました。それはやがて、ネグロスの人々の自立への闘いを応援し、交流を続けていく取り組みとなりました。20年余りのネグロスとの連帯は、インドネシアのエコシユリンプ、パレスチナのオリーブオイル、東ティモールのコーヒーなど、民衆交易という形で、アジアに広がってきました。それは人と人との交流につながってきました。

そのようなアジアの各地で自立に向けてさまざまな取り組みをしている民衆と連帯するために、これまで民衆交易を支えてきた、グリーンコープ、生活クラブ、大地を守る会など8団体呼びかけ人となって、2009年10月、「アジア民衆基金」を設立したのです。

基金の財源は、産直民衆交易（ネグロス）バナナとエコシユリンプの商品代金に含まれている「基金」が充てられています。私たちの利用が、「基金」の充実につながっていきます。

深まる南と北の連帯

和やかな昼食交流をはじめ、午後からは、現在検討・申請中の案件が報告されました。インドネシアやパレスチナなどからも新たな申請があり、人々の生活の改善に加え、市場の活性化や子どもたちの教育の改善などさらにすすんだ提案がありました。

最後に、昨夏亡くなられた朴才一さん（社団法人ハンサリム名誉会長）の後任理事に就任した金政慶さん（ハンサリム連合会会長）から閉会の挨拶がありました。「韓国には何事もはじまりが重要だということわざがあります。頭で考えたことを実践に移す

うちのメーカー

104

福岡県八女市
木下食品株式会社

うちの生産者



木下食品株式会社
代表取締役
木下廣一郎さん

ほんものの こんにやく

生芋こんにやく



福岡県八女市にある木下食品は、グリーンコープのこんにやく製造メーカーの一つ。昔ながらの生芋こんにやくの製法を守りつつ、グリーンコープ組合員のニーズにも応えている。

田園風景の中の木下食品の工場を訪ね、三代目社長木下廣一郎さんに生芋こんにやく作りにかかる思いを聞いた。

生芋こんにやくの製造工程



1926年、木下食品は、地元八女産のこんにやく芋の卸問屋として創業した。1950年頃に八女市はみかんの一大生産地になり、手入れされたみかんの木陰がこんにやく芋の生育にびったりだったことから、一時は近隣でも多くのこんにやく製造業者が栄えた。この頃から木下食品も、こんにやくの製造を手がけるようになり、現在も生芋を使つたこんにやくを作り続けている。

しかし1990年頃には、みかん農家の衰退と、中国などから安価なこんにやく製品の大量輸入により、八女市だけでなく全国的にこんにやく業者が激減。こんにやく製造そのものも、こんにやくに精粉を使った簡単な製法へ一斉に流れた。「こんにやく精粉」とはこんにやく芋を乾燥・精製し、グルコマンナンだけを抽出したもので、「精粉」を使うと原料も必要な分だけ仕入れが可能で、品質も安定し保管も簡単。作業の効率もアップできるため、こんにやく製造にかかる手間と時間が大幅に削減された。現在、一般的に広く流通しているこんにやくは、ほとんどが「精粉」を使ったものだ。

こんにやく精粉でのこんにやく製造が主流になる中、生芋を使った製法にこだわる業者は全国でもごく少数だ。その中でも木下食品は、創業時からの製法を守り、生芋でのこんにやく作りを続けている。

こんにやくに精粉で作られたこんにやくは、生芋こんにやくより舌ざわりがツルツルしている。こんにやく精粉自体は真っ白に精製されて

れているため、できあがったこんにやくも白い。生芋の色に近づけようと海藻類の粉末などを混ぜて黒っぽく加工したものもある。それに比べて、生芋から作られるこんにやくは表面も粗く食べてみると歯ごたえがしっかり感じられる。「これがほんもののこんにやくの味なんです」と木下さん。生芋からのこんにやく作り

にこだわるのも、生芋こんにやくが持つ歯ざわり、風味、味しみのよさ、そして何より生芋こんにやくを「おいしい」と言ってくれるグリーンコープの組合員がいて「もつとおいしいものを」と求めてくれるからだと言う。「時代の波を越えてこそ見えてくる食べものの本質と自然の恵みのありがたさが、一人でも多くの人に伝わるように願っています」。

木下食品で1年間に使われるこんにやく芋は約140t。そのほとんどが群馬県産で、11月から12月にかけて収穫されたものが年に1回運ばれてくる。こんにやく芋は気温の変化に弱く傷みやすい。生のままでは保管が難しいため、倉庫で急速冷凍され1年分まとめて保管される。工場では

先を見据えて力強い。デリケートな生芋

冷凍した芋を前日から蒸しておき、翌早朝から作業に取りかかる。皮ごとミキサーでつぶし、その日の湿度、温度、芋の状態など、さまざまな条件を加味し練り作業に入る。冷凍の芋でも生芋のものと同じ風味を出すために、練りの段階で細かく調整される。この「練り」の工程が、できあがった生芋こんにやくの歯ごたえ、「ひき」と呼ばれる粘りなどの食感の決め手になる。

「先代から伝わってきた製法で作り続けてきただけです。三代目の木下さんはごく自然なことと話す。「生芋こんにやくらしさを味わいたい時は、下ゆでしてアタ抜きし手で小さくちぎって少量の醤油に漬け、かぼすやゆずをキュッと絞ってどうぞ」。

早朝から湯気に包まれる木下食品の工場では、「ほんもののこんにやく作り」が、今日もはじまる。

最後にもう一度、人の目で仕上がりを点検し、箱詰めされる



2011年を寿ぐ

新年あけましておめでとうございます




中村 富美子 理事長

昨年、グリーンコープが大阪にきて5周年を迎えることができました。秋には万博公園で盛大なグリーンコープまつりを開催し、組合員、地域の皆さん、メーカー、生産者、職員とお祝いしました。

今年は、もっと、もっと組合員の輪を拡げていき、たくさんの組合員が出会い、集える場をつくっていきます。うさぎのようにびよんびよんと、未来に向かって元気に大きく飛躍していく1年にしたいと思います。

グリーンコープ生協おおさか




長沼 浩美 理事長

たべもの委員会を中心に、昨年はいろいろな活動に積極的に取り組んできました。組合員のつどい、メーカーさんの学習会、生産者との交流会、その中で多くの方と出会えたことがグリーンコープ生協ひょうごの大きな力になりました。

本年もグリーンコープ生協ひょうごは、人との出会いを大切に、「生命」を大切に、ひょうごの地で豊かに広がっていきように、元気に活動していきます。

グリーンコープ生協ひょうご




坂口 陽子 理事長

いよいよ今春から地域限定ではありますが「産直放牧黒豚」の供給が始まります。2年前の最初の母豚の導入から生産者と共に開発に関わってきました。産まれた子豚たちの可愛らしさを喜び、成長を見守りました。やがて、子豚たちが出荷の時期を迎え、その生命をいただくことを経験しました。

3月開催予定の地区組合員総会では、「産直放牧黒豚」の開発を通して感じた食べものことや取り巻く状況などを、率直に多くの組合員と話しあえればいいなあと思っています。

グリーンコープ生協おかやま




松村 理津子 理事長

「私の大好きなグリーンコープをもっとたくさんの人に伝えたい！」そんな思いの仲間たちと日々活動しています。楽しいこといっぱいの中で壁にぶつかることもしばしば。でもきつと、もっと仲間が増えればその壁も乗り越えられるはず♪

今年も大好きな商品を伝えていくことや仲間づくりはもちろん、私たちが一緒にグリーンコープを感じたい人がどんどん増えるような楽しい取り組みを計画していきたいと思っています。

グリーンコープやまぐち生協



久米田 薫 理事長


くまもとでは昨年、お店を組合員のお店としてもっと身近に感じられるように、地域に「お店経営委員会」を設置し、いろいろな取り組みをワーカーズと共に検討してきました。まだまだ歩みはじめたばかりですが、少しずつ手がたえがもついています。

また、グリーンコープ生協くまもと設立から10年目の記念すべき年に、阿蘇の草原を再生していくことをきっかけに、私たちの新たな運動をつくり出していきけるような予感もしています。まだまだ厳しい社会状況ですが、ワクワク感を忘れず活動していきたいと思っています。

グリーンコープ生協くまもと

「命」をベースに 助けあい 地域に広がっていきます

河期以上の厳しさで、デフレ基調の経済の収
グリーンコープの思いを抱樸館福岡開設という形
と。
豊かにグリーンコープの運動を広げていくこ
ワーカーズとしてもその可能性を真に生かす




田原 幸子 理事長

昨年は、ふくおかの店舗でさまざまな組合員活動に取り組みしました。中でも3カ月間のお試しで行った「お店買い取り隊」は、私たちの大切なお店の食べものを残さずみんなで利用していきたいとの思いが募りました。今年はこの取り組みを広げていきます。そして、店舗ワーカーズもグリーンコープ運動と一緒に活躍の主体として登場いただきます。

たくさんの方の夢が広がっています。みんなの力をあわせて良い年にしていきます。

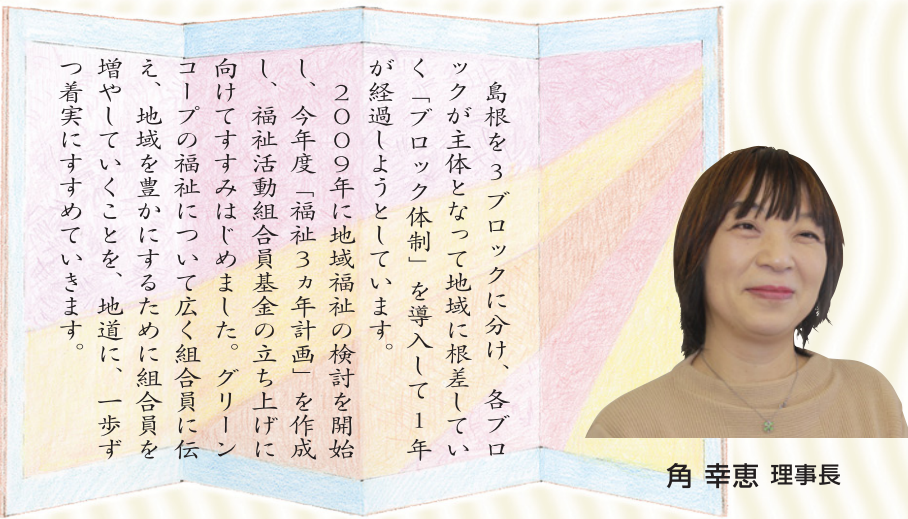
グリーンコープ生協ふくおか



奥田 富美子 理事長

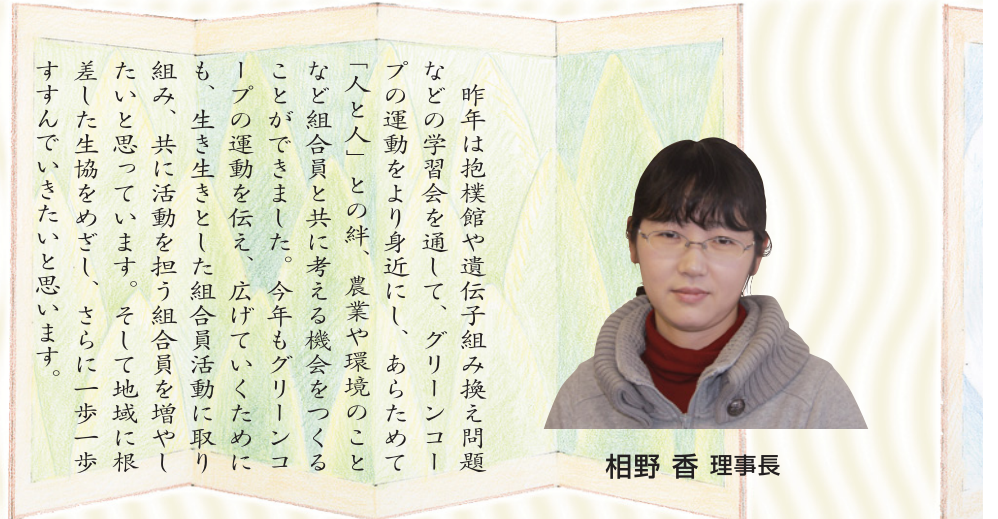
今年、おいたは設立から25年を迎えます。たくさんの方の組合員と楽しめる記念イベントを6つのセンターで企画します。それぞれの地域を舞台にグリーンコープを思いっきりアピールします。「お店改革プロジェクト」では働くワーカーズが「ワーカーズで良かった」と実感できるようにしていきます。「福祉3カ年計画」では「この地域に暮らして良かった」と思えるように「夢ヲかたちに」していきます。まずは地域を元気に！そして日本を元気に！（大きいカ）今年も自分らしくすすみます。

グリーンコープ生協おいた



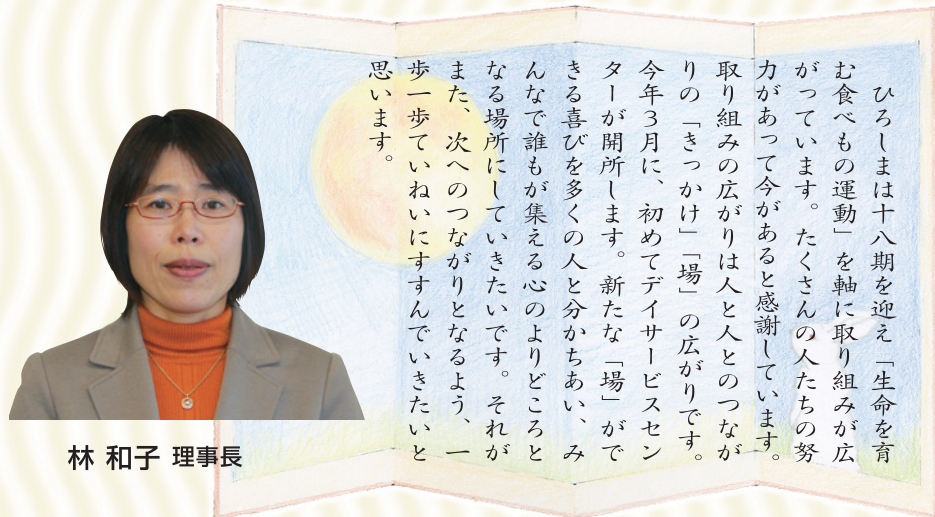
角 幸恵 理事長

グリーンコープ生協(島根)



相野 香 理事長

グリーンコープ生協とっとり



林 和子 理事長

グリーンコープ生協ひろしま

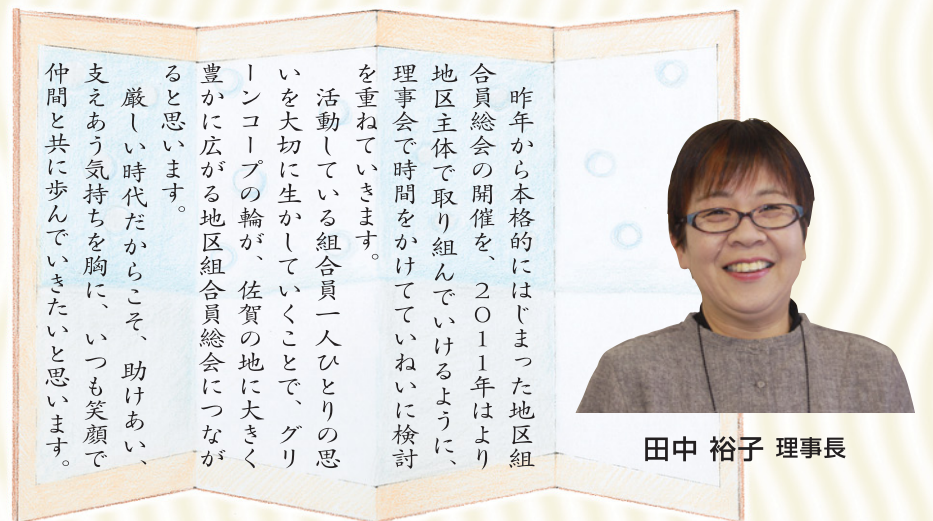
いのち 「生命を育む食べもの運動 グリーンコープの助 支えあいを」

経済の冷え込みが続いています。新卒の就職は就職氷縮も深刻です。そんな中、昨春には生命に寄り添うグリで、地域社会に向けても一歩を踏み出すことができました。今年、生協設立の原点に立ち返り、仲間を増やし、と、そこに関わる一人ひとりの組合員が、組合員活動や取り組みに果敢に挑戦していきます。



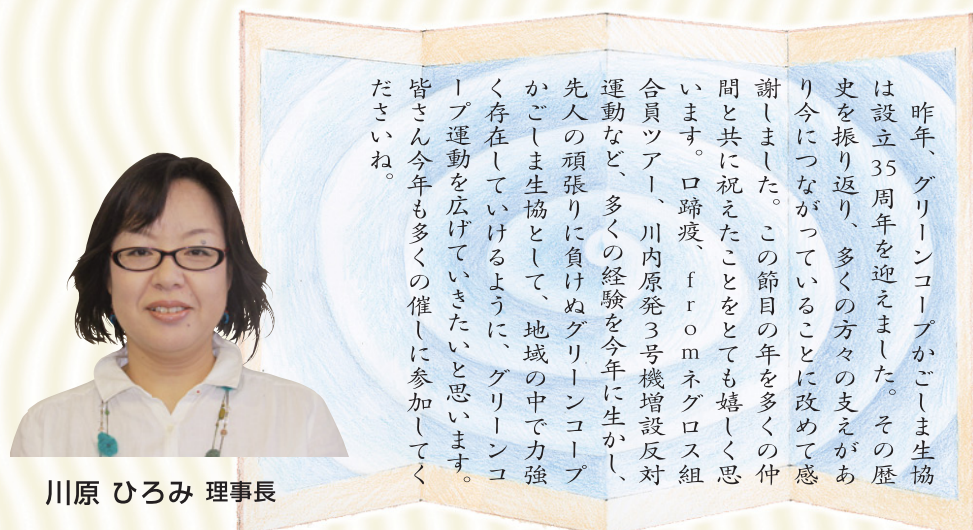
高橋 純子 理事長

グリーンコープ生協(長崎)



田中 裕子 理事長

グリーンコープ生協さが



川原 ひろみ 理事長

グリーンコープかごしま生協



杉尾 紀美子 理事長

グリーンコープ生協みやざき

原点に返り、さらに役立つBMW技術へ

グリーンコープがBMW技術に出会って約20年。BMW技術は農畜産の生産現場で、また日本にとどまらず韓国・フィリピン・タイ・ベトナムなどのアジア各国でも利用が広がっています。

10月2日、「西日本BM技術協会第18期総会」が熊本市で開催され、グリーンコープの産直生産者など50人が参加しました。総会前には、グリーンコープ産直若鶏生産者・日永さんの大矢野原農場で研修会も行われました。

審議に入る前にグリーンコープから「原点に戻る、BMW技術」が提起されました。BMWをはじめた当初に立ち返り、楽しみながらBMWを活用していく仕組みづくりを考えていこうというものです。

この日の総会を皮切りに、BMW技術はもう一段の広がりへ向けてすすみはじめました。

今号では、BMW技術がどんなものなのか、産直生産者間でBMW技術がどのように活用されているか、当日のようすとあわせて紹介します。

BMW技術の仕組み

全ての生命の源である水。自然界の水は、山に降った雨が地中へとしみ込みます。地中の土は、長い年月をかけて岩石が侵食・風化され、動物も最後はバクテリア(微生物)に分解され土に還り、豊かになっていきます。水はそのような土を通過することで、ミネラルを含んだ「良い」水になるのです。

「BMW」技術はこのような自然の浄化作用をモデルに、「バクテリア(B)の働きで、ミネラル(M)バランスに優れた、ウオーター(W)を作り出す」技術です。そうして作られた水を、有用な菌を活性化させる水、「生物活性水」と呼んでいます。もともと廃水処理から発した技術でしたが、さまざまなところで驚きの効果をあげてきたことから、農畜産分野での活用がすすめられてきました。

BMWで匂いが消え、豚も元気に育つ

熊本県上益城郡の産直生産者・清村養豚場の清村さんは、BMW技術を導入して10年。豚舎の向かいにBMプラントを設置して、豚の尿を処理しています。処理水は豚舎に噴霧することもありますが、そうすることで、有用な微生物をバランスよく棲息させることになり、豚特有の臭いを抑えることができるのです。また、敷地奥の堆肥場に運び込んだ糞にこの処理水を加

えながら発酵させて、堆肥に変えています。発酵が進むほど臭いは減っていき、ハエは大きな課題でした。技術導入前は外出するときに服を着替えても臭いが気になっていました。BMW技術のおかげで、豚舎周辺の環境は大きく改善しました」と清村さん。

工夫で技術を面白くする

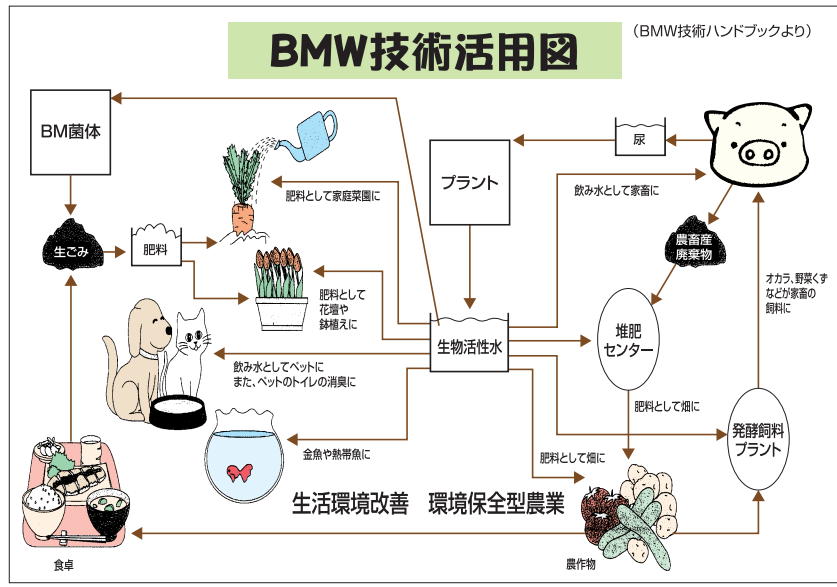
熊本県上益城郡にある産直若鶏生産者、大矢野原農場の日永さんはグリーンコープが導入した当初からBMW技術に取り組んでいます。養鶏では尿処理がないため、

大矢野原農場は、10月2日、西日本BM技術協会の総会前の現地研修会の会場となりました。研修会には、九州圏内各地の生産者がプラントを利用してつくった自前の堆肥を持ち寄りしました。温めて、臭い(アンモニア臭)の有無で完全に発酵しているか

日常生活にも役立つBMW技術

農畜産分野での効果が明らかになり、家庭でも利用できないかと、1997年からグリーンコープでは、生物活性水とBM菌体の取り扱いははじめました。生物活性水は、家庭菜園・ガーデニングなどに使ったり、希釈してペットの飲み水に混ぜて与えることでペットの匂いを和らげるなどの効果も見られます。BM菌体は、生ごみに混ぜて発酵を促し、土にかえしていけるようにするもので、生ごみ処理に使われています。

また、BMW技術を応用した「活水器」は、内部に腐植土や岩石を組み込み、それを通過することで水を改善します。発がん性物質のトリハロメタン、鉛、農薬なども除去することが確認されています。



清村養豚場 清村さん



▲10月2日に開催された「西日本BM技術協会」の総会の様子



清村養豚場 BMプラント 曝気中の槽



▲堆肥に白い糸状菌が見えるのは発酵がうまくいっている状態

▲清村養豚場 堆肥場



大矢野原農場・日永さん(右)と息子の幸介さん(左) 中央はBM技術協会理事の椎名さん



▲大矢野原農場 BMの生物活性水



▲大矢野原農場のBMプラント

BMW技術は、農業と畜産業をつなぐだけでなく、活性水の利用やごみ処理を通じた環境づくりから地域のあり方まで変えることが可能なシステムです。今後共同での学習会が予定されています。

※微生物に本来の働きを取り戻してもらうために必要な腐植土とミネラル供給源であり棲みかとなる自然石を組み込んだもの

産直びん牛乳を飲んで 生産者を支えていこう!



▲左から森由美さん、恵藤みさき委員長、右田ひとみさん、芹川光代さん、梁池久芳さん

生産奨励金を届けました 2010年12月9日 熊本県菊池市



▲生産奨励金の目録を手渡す

組合員からのメッセージ一つひとつに目を通しながら生産者の右田さんは「心のこもったたくさんさんのメッセージをみんな読んでいきます。私たち生産者の励みになります」と喜びの気持ちで話しました。梁池さん

口蹄疫を乗り越えて

2010年4月、口蹄疫の発生を受けて「酪農生産者交流会」、「酪農ホームステイ」を中止。現在も産地見学を自粛しています。今回、グリーンコープ共同体を代表して商品おすすめ委員会委員長長恵藤みさきさんが生産奨励金を生産者に届けました。この間、交流ができた生産者の思いなどを報告します。

冒頭、2010年5月にnon-GMO牛乳生産者会総会で新しく委員長に就任した梁池さんの挨拶では「4月に口蹄疫が発生し、グリーンコープと相談して酪農生産者交流会、酪農ホームステイを中止してきました。もし、畜産地域である菊池市に口蹄疫が入ってきたら、乳牛はすべて殺処分ということになります。農家一丸となって防疫に邁進し、ここから口蹄疫を出すことを避けることができました。今回の集まりは、委員長に就任して初めての行事ということになります。来年度はグリーンコープ組合員さんとの交流を深めていきたいと思えます」と、これからの抱負を話しました。

グリーンコープでは、生産者に酪農をずっと続けてもらえるように、そして私たちが産直びん牛乳をずっと飲み続けることができるように、2008年から産直びん牛乳の価格に含まれている「生産奨励金」を届けています。2010年4月、口蹄疫の発生を受けて「酪農生産者交流会」、「酪農ホームステイ」を中止。現在も産地見学を自粛しています。今回、グリーンコープ共同体を代表して商品おすすめ委員会委員長長恵藤みさきさんが生産奨励金を生産者に届けました。この間、交流ができた生産者の思いなどを報告します。



たくさん寄せられた組合員からのメッセージ

「口蹄疫が終息してからは牛の世話や、会議、研修で毎日大変な状態です。ゆっくり休む暇がありません」と少し疲れた表情を浮かべていました。森さんは「酪農ホームステイは毎年子どもたちが楽しみにしている行事だったので、何だか申し訳ない気持ちでいっぱいでした。子どもたちの生き生きとした様子を見て、こちらも楽しませていただいていたので今年は何となく寂しかったですね」と、この期間を振り返りました。

最後に生産者の坂本さんの「毎年、私たち生産者にとって貴重な生産奨励金、たくさんさんのタオルやメッセージを届けていただき本当にありがとうございます。今年ほど交流ができませんでしたが、来年度は交流を深め、いい年にしていきたいと考えています」という言葉で交流を終えました。

「口蹄疫問題は今までで一番辛かったです。毎日見えない恐怖に脅えながら自己防衛するしか方法がありませんでした。殺処分のことがニュースで流れてくるたびに、同じ仕事をしている仲間として胸が締め付けられる思いでした」と芹川さん。

募集 2011年 シャボン玉月間ポスター (募集要項)

でき上がり寸法: B3(横36cm 縦51cm)
色など: カラー(紙、データ(PDF添付))
必ず入れる文字: (2011年キャッチコピー)
「せっけんで暮らしを洗濯 未来を選択」
内容: 「石けんを使う暮らしの提案」、「水環境保全についての提案」など
※住所、氏名、電話番号、所属生協名を明記する
締切り: 2011年3月1日必着(メールまたは郵送で)
賞金: 3万円(採用作品のみ)

(作品の送り先・問い合わせ先)
〒336-0021 さいたま市南区別所5-1-11 生活クラブ生協(埼玉)本部内 協同組合石けん運動連絡・事務局
TEL・FAX 048-863-7896 E-mail kyosekiren@opal.ocn.ne.jp



「原子力発電所が海を温める」

今日、原子力発電所は100万kw規模が標準になりましたが、その原子力発電所では、総出力(熱エネルギー)の約3分の1を電気にするだけで、残りの約3分の2は排熱として海に捨てられます。その結果、排水温度は取水時より7度上がると言われています。私たちが普段入っているお風呂の温度が7度も上がってしまうと、入れません。海の生物たちにとっても、温度が7度も上がってしまうという大変なはず。薩摩川内市に、出力159万kwという世界最大級の原発を増設しようという計画があります。もしその原発が増設されると毎秒240tもの温排水が排出され、1年間の流量は鹿児島県内最大の河川である川内川の年間平均流量の2.2倍にもなります。この排熱は周辺の海水の温度を何度上げてしまうのでしょうか!さらに生態系を乱す原発はもうこれ以上ありません。参考文献: 九電と原発(佐藤正典 南方新社出版)

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿欄

言・い・た・い

私の好きなグリーンコープ商品

投稿募集中

- わが家のエコ
 - 私の好きなグリーンコープ商品
 - 400字程度
 - 毎月月末
 - 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
 - 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。
- 〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1 カーニープレイス博多4F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

今日はどの味?
わが家流めブレイン
ヨーグルト(マイルド)
わが家のオススメはめブレインヨーグルト(マイルド)です。2歳の長女が離乳食の頃からお世話になってます。砂糖入りのヨーグルトも魅力的ですが、ブレインヨーグルトにグリーンコープのジャムを入れて混ぜて食べるのがわが家流。毎朝「今日はいちごヨーグルト」とトッピングを楽しみながら美味しく食べています。
グリーンコープ生協(島根) 松島 陽子

子どもたちの未来のために「エコ」をがんばる



そうめん流し。「ふれあいサロン」の7月企画だった

山陰の小都市である島根県益田市。NPO 法人コアラッチは益田市を中心に、子どもたちを巻き込んで地域に根ざした環境活動を幅広く行っています。

代表の常國文江さん、メンバーの田村かおるさん（共にグリーンコープ生協（島根）組合員）に話を聞きました。



いま地域を考える

No.209



県から企画・運営を委嘱されているこどもエコクラブの交流会

スタートは子育て情報の収集から

常國さんが転勤で益田に移り住んだのは1997年。今のようにインターネットが普及しているわけではなく、子育てに役立つ地元の情報を得ようと、結婚して益田にきた仲間2人と1999年グループを作った。コアラッチの誕生だ。グループ名はいつも子どもを抱っこしているコアラにちなんだ。求めた情報は、益田市の幼稚園や保育園が子育て支援のために行っている園の開放日情報や、子連れで行ける施設など。集ううちに、捨てるにしのびない子ども服の交換会を仲間内ではじめた。同時にこれらの情報を掲載したフリーペーパー「遊ぼ」を季刊で発行開始する。この「遊ぼ」は2009年に人手不足に

より携帯への情報発信に切りかえられ、休刊となったが、それまで10年間で40号が発行された。内容は、開放保育園・幼稚園の情報、おすすめの絵本や、すぐに取り組めるエコ、生活用品のリサイクル情報コーナー、市内に点在する子ども服リユースステーションの案内など。リユースステーションとは、かつてのグループ内での子ども服交換が補助金を得て収集と提供の拠点を開設し、その後、市のバックアップで常設となったものだ。

2006年には環境活動を軸に、きちんとした活動がしたいとNPO法人格を取得した。活動が生活の糧になればという願望もあった。とはいえ、現実はかなり厳しい。活動会員は看護師、市の職員、教員、学生などで、仕事や勉学の合間に活動が続いている。

現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため



中学校でのエコセミナー。生徒たちには新鮮な体験

2010年1月の組合員数 406222人 (11/20現在)

2010年10月分

リユースリサイクルデータ	牛乳びん 回収本数 784,296本 回収率 98.0% (9月19日～10月16日回収分)	フードマイレージ 2010年11月までに組合員の利用によってたまったのは 74,232,763.4 poco CO ₂ に換算して7,423トンを削減したことになります
リユースびん 回収本数 185,476本 回収率 57.0%	トレー 回収重量 11,308kg 回収率 48.6%	アジア民衆基金 2010年11月までに組合員の利用によってたまったのは 12,982,516円
モールドバック 回収重量 35,740kg 回収率 115.0%	仕分け袋 回収重量 1,276.4kg 回収率 8.0%	

放射能汚染測定結果報告(205) 2010年10月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ 紅茶	スリランカ	ND	ND	ND
※ 紅茶	インド	ND	ND	ND
※ ココア	ガーナ	ND	ND	ND
※ コーヒー豆	エチオピア	ND	ND	ND
※ コーヒー豆	南米	ND	ND	ND
※ れんこん	熊本県	ND	ND	ND
※ パレイショ	北海道	ND	ND	ND

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため

「ふれあいサロン」は癒しの場。現在のコアラッチの活動は、「子育て支援のための「ふれあいサロン」E」などの運営、地球温暖化防止のため